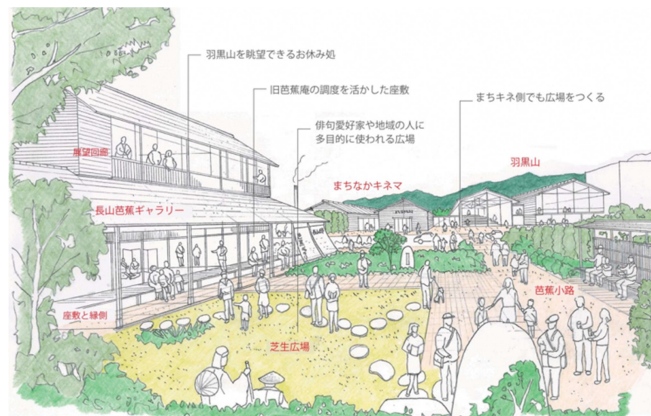


(活動報告書様式)

団体名	特定非営利活動法人 公益のふるさと創り鶴岡		
事業名	奥の細道・芭蕉の逗留地「長山亭跡」整備計画策定事業		
助成事業区分	協働助成事業（テーマ希望型） 【テーマ：やまがたまちづくり活動支援事業】		
団体の 所在市町村	鶴岡市	事業費	700,128 円
		うち助成金額	585,897 円



■事業の目的

俳聖松尾芭蕉は、元禄2年に羽黒山を下って、鶴岡城下に住む庄内藩士 長山重行の屋敷に入りました。松尾芭蕉は、ここで、食膳に供された鶴岡の名産「民田なす」が目にとまり、「めずらしや山をいで羽の初茄子」の句を詠んだといわれています。この長山重行跡地は現在「鶴岡まちなかキネマ」の一角にあります。その後、維持管理もされておらず荒れ放題になっていた跡地を、行政・NPO・市民協働で整備・維持管理する計画を進めていくことを目的として下記の事業を実施しました。

■事業内容

奥の細道の中の芭蕉逗留の地として「長山邸跡」の歴史は古く、武家屋敷として中級武士が幕末期まで住まいにしており、明治期になり解体され、織物工

場となりました。その一角に石碑が立っており、この地は現在まちづくり鶴岡株式会社が取得し平成25年に再整備されました。また、歴史を調べてみると、芭蕉が逗留したとされる庵は、後に上肴町の造酒屋「長澤太治兵衛」が「芭蕉庵・自然庵」として庭の一角に移築していました。その後、明治期に廃業、その後「鯉川酒造」が取得していましたが、「芭蕉庵・自然庵」は老朽化により昭和50年代に解体され、調度品などのみが鯉川酒造に残っていました。主体者が宙に浮いた状態を合意形成のワークショップをしながら、歴史的にも貴重な部材も活用して、長山邸跡地を整備する計画づくりを進めました。ワークショップ 全5回
整備計画策定 全1回
実施報告書の作成

■事業の効果

芭蕉の逗留の地「長山邸跡」は観光サイトでも取り上げられているほどの重要な地でありながら荒れ放題なところを、行政・NPO・市民が協働して整備を進めていく取り組みを進めてきましたが、長山邸跡地の所有者が土地と建物を使ってもいいという朗報を受けるという急展開があり、今後への期待の持てる提案をすることが出来た。同時に、鶴岡にある芭蕉ゆかりの調度品類の調査も行うことが出来ました。

■今後の展望

行政だけでなく、企業・NPO・市民が参画しながら、今後は周辺町内会への認知と地権者への丁寧な説明をしながら跡地整備を進めていく方向性が見えてきた。整備から維持管理を進めていく事業として成功するようにしてく所存です。